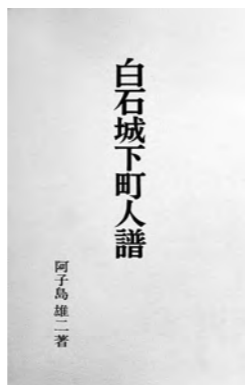


貴重な資料や珍しい本が数多く収められている図書館！ 「あのころの白石」に思いを馳せ 本とともに過ごしたら さぞや気持ちが良いそうだ！

白石城下町人譜 ■ 阿子島 雄二 著



近世白石城下町の町人の系譜=いつどこから来て、どのような商いと暮らし方をしてきたかを、故阿子島雄二氏が、百何十人かの商人の家を訪ね歩き、言い伝えに基づきできるだけ正確に、長い歳月をかけてまとめたもの。聴き取りの大半は明治生まれの世代の方を選び、本を開くと「明治・大正・昭和

を生き抜いた、「生き字引の方々」の声が聞こえてくるようだ。特権商人たちが、新田開墾・貸付金融・前貸生産物の独占などで、沽却(こきゃく)=【売り払う事】・つぶれなどに依る田畑を吸収しつつ、本家は分家を生み、明治維新の戦乱を境に更に大きく交替して、今にいたっている様子が手に取

るように分かる。現在の白石市の商工・経済界を知る上でも、大変意義深く、ほかにはない、珠玉の重要かつ貴重な資料となっている。長年個人一人でコツコツと調べ上げ、これほど白石の商家について詳細に書かれたものは、後にも先にもこの一冊だけになるのではないだろうか。

奥州白石ばなし ーふるさと散歩覚え書ー ■ 藤井 武夫 著



蔵王山の東南の麓、白石川の清流にのぞむ小さな町、白石市。この美しい山河の地に残されている史跡や口碑伝説などの典拠を知る良書が、この『奥州白石ばなし』である。

- 宮城野・信夫の仇討
 - ・白石と「しらいしばなし」
 - ・碁太平記白石噺
 - ・姉妹達大礎(あねいもとだてのおおきど)
 - ・慶安太平記
 - ・姉妹敵討の実説
 - ・白鳥神社と白鳥伝説
- 奥の細道と白石
 - ・芭蕉は白石に泊った
 - ・佐藤庄司の旧跡

- ・甲冑堂
- ・伊達の大木戸と鏡摺
- ・蕪村と松窓乙二
- 天明頃の東北旅行記
 - ・幕府巡見使と「東遊雑記」
 - ・古川古松軒のみた白石
 - ・林子平と古松軒
 - ・天明の大飢饉
- 吉田松陰の東北遊歴
 - ・青年松蔭の亡命
 - ・東北遊日記
 - ・白石の一夜
 - ・松蔭の服罪と江幡五郎
- 白石戊辰史
 - ・世良修蔵の墓
 - ・白石同盟
 - ・「奥羽皆敵」
 - ・輪王寺宮と白石公議府
 - ・奥羽鎮定
- 明治維新の悲劇
 - ・原敬と白石南部藩
 - ・白石「按察府」
 - ・北地跋涉と「石狩川」
 - ・北海道の白石村
 - ・奥羽の世直し一揆
- 東北と二つの維新
 - ・一山百文
 - ・東北の開発と農民
 - ・自由民権と大正デモクラシー

- ・昭と維新
- ふるさとの山・蔵王
 - ・二つの蔵王
 - ・国破れて山河あり
 - ・伊達騒動と「樞ノ木」騒動

伊達騒動を扱った文学作品には、志賀直哉の『赤西蛸太』がある。仙台坂の伊達兵部の家来赤西蛸太は愛宕下の原田甲斐の家来家臣銀鮫鱒次郎とともに、実は白石からの密偵で両家を内偵した報告書を白石の殿様に届ける〜とあり、登場人物の名がすべて魚貝の名がつけられている奇妙な小説。「白石の殿様」とは、もちろん片倉小十郎であるが、表面には現れない。

俗説伊達騒動は、仙台藩の「寛文事件」を脚本したものであるが、史実からみれば、片倉小十郎の立場は極めて重要で、伊達家安泰のために献身した、いわば仙台62万石の柱石というべき人であったことを忘れてはならない。この事件の時の小十郎は三代景長で、『片倉代々記』(三代景長譜)に記録が残っている。

「寛文十一年五月二十八日 この日の記録の中に將軍家綱の上意により、片倉小十郎に仙台藩国老を仰せ付ける」と誌してある。

Interview

図書館の醍醐味は「宝物探し」！

本に出会うことで、別の展開が生まれ世界が広がる



郷土資料室利用者
赤井畑 柳二さん(小原)

我が家に古文書があり、13年ほど前に古文書を読みたいとの思いから、NHKの古文書通信講座を3年間受講し、古文書の基礎を学びました。その後、「宮城県古文書を読む会」に入会し、今日にいたるまで月1回仙台に10年間通いました。そんなおり、「白石古文書の会」の故中橋会長に声を掛けていただき、「白石古文書の会」に入会し、今も毎週水曜日に古文書の整理・解説をみんなで楽しみながら、行っています。

古文書を解説していると、裏付けとなる資料が必要となります。基本書である「白石市史」や「仙台市史」、「宮城県史」は歴史を教えてくれる道しるべ。「人づくりの風土記」や「宮城の研究」なども郷土資料室に足を運んで読んでいます。

郷土資料は、地元を知るための入り口ではないかと思っています。自分が知りたいことの手掛かりを知ることができて、考えるきっかけにもなります。そして、それを繰り返していくうちに、自分が追求したいことがどんどん深まっていくのではないかと思います。図書館には歴史的にも貴重な資料がたくさんあります。来て、見て、調べて、これからも地元再発見の旅を楽しみたいと思います。

ふるさとの思い出写真集 〈明治・大正・昭和〉白石

阿子島 雄二 岡崎 雄四郎 片倉 信光 共編 発行所 (株)国書刊行会



国書刊行会の「ふるさと白石の写真集」を発行したいとの要望で、以前発行された「明治百年白石風物誌」(前後編)の2冊を底本として、新たに発見された写真200枚ほどを加え、解説もすべて改稿して作成した写真集である。ほとんどが白石の人たちの素人の手で写されたもので、それ故に、この白石

の明治・大正・昭和のおよそ100年間の庶民の暮らし、産業、建物、民俗、風物などを写真で表現。白石の激動の歴史を十二分に語りつくしているといえるであろう。
●写真内容
・蔵王山麓温泉郷と白石
・交通機関と白石停車場

・名所・旧蹟のたたずまい
・白石大火と懐かしの町並み
・世相と風俗あれこれ、祭典の賑わい
・白石の産業と活躍した人々
・教育と文化
・太平洋戦争下の白石町民
・疎開学童たちのふるさとー白石
・全景 など